

ERIK BRUUN BIOGRAPHY

エリック・ブルーン バイオグラフィー



●エリック・ブルーンの故郷

エリック・ブルーンは1926年4月7日、フィンランド東部カレリア地方（現ロシア領）のヴィープリで生まれました。一家はヴィープリ近郊のサイニオという美しい村で暮らしていました。この村からはテキスタイルのキルシ・ランタネン、家具デザインのウリヨ・クッカプロ、デザイナーのオイヴァ・トイッカなども輩出しています。ブルーン家は、その村で母がやっていた養鶏場で成功していました。エリックの遊び相手はもっぱら3歳半年上の兄カイ。カイは後年庭師となり、また有機農業をはじめることになります。

●若かりしエリック

当時のエリックが夢中だったのはスポーツでした。兄と一緒に手漕ぎボートをつくり、それでストックホルムまでの往復をしたこともあります。そのときはストックホルムからさらに先へ、タンデム自転車を借りてオスロまで行き、親戚に会いにいったのでした。ほかに興味があったものといえば、模型飛行機。エリックは1940年代に翼幅3.5mの模型飛行機をつくっています。



●サイニオを離れて

第二次世界大戦後、サイニオ村はロシア領になりました。一家は住み慣れた故郷を離れ、何度かの引越しを経てサイニオからエスポーにたどり着きました。ここで4ヘクタールの土地を購入します。

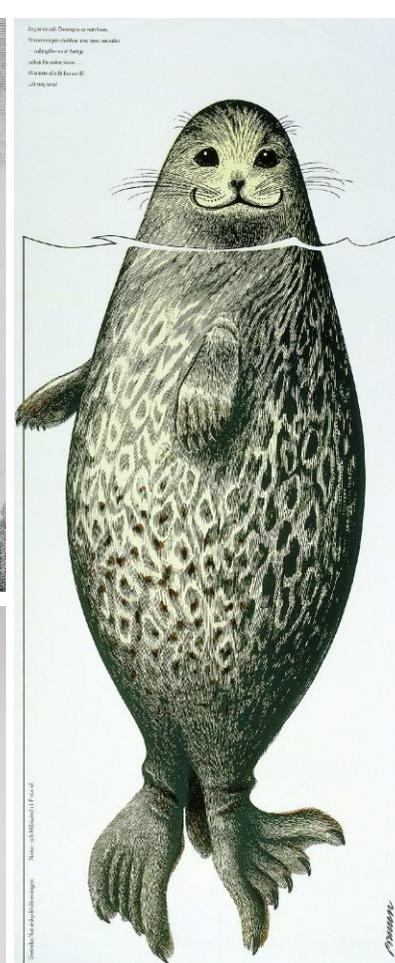
エリックは1945年に軍の召集を受け、そこからヘルシンキにある芸術デザイン大学の夜学へ通いました。夜学での勉強を2年修めたところで日中への転学が許可されます。学生時代から頭角を表し、1947年～48年期にはたとえばカウニス・コティ誌の表紙画コンペで優勝して3500マルカの賞金を獲得するなどの活躍をみせました。

●キャリアの始まり

学生生活の傍ら、メッソソミスタモ社やクヴァマイノス社で仕事をするようになり、力をつけていきます。とくに後者の会社のコンペを経て、はじめて自作のポスターが印刷されました。1951年～53年はスオメン・イルモイトゥスケクス社に勤務し、その後1953年に独立、フリーの広告デザイナーになります。

当時新聞ではまだカラー広告がなく、テレビが広告媒体になるのもまだまだ始まりに過ぎませんでした。街頭で目を引くカラーの広告こそが商品のブランド力を作る役割を背負っており、これが脇役に回るのは何年も先のことでした。ポスターの黄金時代、エリックへの仕事の依頼は続きました。大手新聞社や、ハートウォール、ハヴィ、旅行観光分野等様々なクライアントの仕事を請け負いました。





●自然への懸念

1960年代初頭、エリックは化学成分による自然への影響を報じる悪いニュースに心を痛めており、絶滅の危機に瀕する様々な動物のポスターを制作しました。1974年には後に大変有名になる「サイマーワモンアザラシ」のポスターが誕生しました。このモデルになったのはタンペレの水族館にいたアザラシです。エリックは水族館でこのひとりぼっちのアザラシと仲良くなり、アザラシはエリックの絵を見て笑ったといいます。専門家はアザラシは笑ったりしないといいますが、エリックは笑うと考えています。

●フィンランドへの想い

旅やフィンランドのことを世界に伝えることも、エリックが大事にしていることのひとつでした。フィンランドの自然は唯一無二、なのにそれが十分に紹介されていないと考えていました。そこでフィンランドの自然を細かいところにも目をやりつつ紹介する何十ものポスターをデザインしました。

●生涯現役

1926年生まれのエリック。90歳を超えても朝から晩までグラフィックデザインをしています。アイデアを出すことや考えをカタチにすることは、元気である最高のエネルギー源なのです。エリックはいまも毎日のように世界中からやってくるライターや記者に会い、パーティーやイベント、そのほか自身の展覧会などにも顔をだしています。

